

平成30年8月23日(木)

老球の細道433号

ハーフタイムの指示

会津バスケットボール協会 室井 富仁

インドネシアのジャカルタでアジア競技大会がスタートした。バスケットボール競技では、日本男子代表が1次リーグ予選で、約1カ月前のW杯アジア地区第一次予選で40点差で圧勝した台湾に65対71で敗退した。ただ、今回は12人中8人が前回と同じメンバーの台湾に対して日本は2人(太田、辻)のみであった。言い訳にはならない。

今回の台湾戦は、日本が前半13点のリードを奪いながら、後半残り1分で追いつかれた。そこから2本連続で3Pシュートを決められ、逆転を許した。

前半で勝ちムードでリードをしても、後半であっさり逆転されるケースはよくある。私は現役コーチの頃に前半20点以上リードして後半逆転されたケースは2回くらい記憶に残っている。もちろんその逆のパターンもある。何がそうさせたのか。私はハーフタイムの指導のあり方にポイントがあるのではないかと思う。

ハーフタイムにできることは何か。基本はチームがハーフタイムの時点で勝つていようが負けていようが、選手には全力を尽くす指示を出すことである。その中でチームの状況に応じて具体的な指示が必要となる。米国のコーチング雑誌『タイムアウト』に記された内容に私自身の拙い経験をふまえると下記のような内容にまとめられる。

◆**勝つと予想されていて、大量にリードしている時**：前半の改善点を強調する。新しいプレイなどにトライさせる。後半は0対0で気持ちをリセットさせてスタートさせる。セカンドメンバーを使うことを示唆しておく。

◆**勝つと予想されていて、僅差でリードしている時**：各選手に、前半でベストなプレイをした選手のレベルまで自分のレベルをもっていこうとチャレンジさせる。後半はまだ使っていないオフェンスやディフェンスを使うことを言う。

◆**勝つと予想されていて、大量にリードされている時**：選手の気持ちや態度を試してみる。勝ちたいのか？負けたいのか？コーチのゲームに対する真剣な姿勢を感情をこめて話す。

◆**勝つと予想されていて、僅差でリードされている時**：明るく自信を持って、ちょっとだけ手直しすればすぐに勝てるんだと言ってあげる。修正点を具体的にシンプルに示す。

◆**負けると予想されていて、大量にリードしている時**：ほめて、さらに勢いをつけさせる。どうやってこのままリードを保つか具体的に示す。

◆**負けると予想されていて、僅差でリードしている時**：前半のリードでは足りないと言う。選手に直すべきところを指摘し、そこを直せばさらに点差を広げることができることを話す。

◆**負けると予想されていて、大量にリードされている時**：最後まであきらめないで戦うことを指示すると同時に、次のゲームに備えて色々なことにトライしてやることを推奨する。ゲームの部分(チームの強み)で勝つことを指示する。

◆**負けると予想されていて、僅差でリードされている時**：選手たちを落ち込ませないようにして自信を持つようなことを話す。今こそ、という新しい戦略、戦術を示す。

コーチ自身が準備万端でハーフタイムを迎えることによって、チームを後半のために準備させることができる。ゲームは最後の最後まで神のみぞ知る。台湾チームに負けた日本代表チームは深夜までカラオケに励んでいたせいかなハーフタイムは眠かったのだろうか。